

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 18日

事業所名 シルビアン音楽療育館

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	1	0	建物自体が狭い為、フロア(広場)や屋外、公園などを積極的に使い、広々と活動できるように工夫している	建物自宅が手狭。今後リフォーム等検討するのであれば広くすることを考えた方が良い。
	2	職員の配置数は適切である	5	0	0	配置基準を満たしており、現状加配もつけている。	人数はいるが支援の質は個人差がある。勉強会や研修参加、ミーティングなどを定期的に行ない、資質向上に努める。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	2	2		フロアや各部屋への段差等は少ないが、玄関には段差がある。身体障がい児を受け入れ出来るよう段差をより減らせるよう検討する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1	4	0	職員全員参画しミーティングやモニタリング会議を行っている。	振り返り後の改善点の共有と実施が課題。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	0		今回保護者評価を職員へ内容を共有し、参考にして業務改善に努めたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	0	毎年ホームページで公開している。	公開を知らない職員と保護者もいたため、会報でお知らせを入れるようにする。QRコードを載せる
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	0	5		今後検討したい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	0	定期的に必要に応じて社内勉強会(研修)を行っている	しかし、外部研修の機会が少ない。今後も定期的に社内研修を行うと共に、外部研修の機会を確保できるよう努める。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	1	0	定期的に子どもと保護者の課題を分析するモニタリング会議を開催し、次の計画に向けて議論を行なっている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	2	0	スケジュールボードや時計の模型などを利用し児童にわかりやすく伝えられるよう努めている。	事業所全体で使い方や共通意識を持って使用するようになる。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	2	0	月初めに会議を行ない、児童から活動リクエストを聞き参考にしている。	会議を参考に管理者が作成している為、他職員にも共有し、チームで立案できるようにしたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1	0	活動が固定化しないよう毎月児童と会議を行ない、活動の提案をしてもらうようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	2	1	児童に応じて休日は宿題時間を多めに設定している。	課題を明確化し、それぞれの日に応じて出来る事を考えより充実した支援できるように努めたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	2	3	0		現在集団活動を多めに組んでいるので、個別活動も充実させたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	0	5	0	定期的にモニタリングを行ない、役割分担をしている。	計画やモニタリングだけでなく、そこからアセスメント、改善、再計画につなげられるようにしたい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	0	5	0	職員数名で気になった事があった時に振り返りを行なっている。	毎日短時間でも振り返りと気付きを共有する機会を設けたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	2	0	記録は抜けがない様複数人でチェックしている。	記録から支援の検証・改善につなげられるようにしたい。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	0	見直しが必要な場合は次の計画で支援内容、方法の変更や修正をしている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	1	4	0		地域支援について不足しており、力を入れていく事が課題。	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	3	0	担当者会議前には事業所内でモニタリングを行ない、状況を把握してから参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	1	0	下校時間の変更が多い学校へはこちらから学校へ確認しており、トラブル防止に努めている。	急な下校時間変更に備え、変更があった際には連絡がもらえるよう電話番号を学校へ渡している。継続したい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	3	1		該当児なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	0	2		該当児なし。提供できるような情報収集は適宜続ける。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	1	0		該当児なし。提供できるような情報収集は適宜続ける。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	3	1		該当児なし。今後出来るように情報収集する事が望ましい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	0	1	近隣の公園や児童館で地域の子どもと遊ぶ機会も稀にある。	定期的に計画して地域の子どもと交流が行なえる機会を設けられるよう検討したい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	1	4		現在参加なし。今後検討したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3	2	0	普段から送迎の際に保護者との雑談を通して課題や状況把握に努めている。継続したい。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	3	2		ペアレントトレーニングの方法等職員間で勉強会を行ない、実施して行けるようにしたい。	
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	2	2	1		契約時には説明を行なっているが、理解していない職員もいる為、共有する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2	3	0	回答が難しい相談は相談支援や管理者に一度相談し、助言をしてもらっている。(1名)	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	0	5		コロナ前は行なっていたが、現在なし。今後小さな規模でも何らかの形で実現したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	0	苦情要望の記録を取り、その都度共有している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	1	0	通信で毎月活動紹介をしている。	予告などは不十分な部分があるので、チラシ作成やポスター掲示、通信に載せるなど児童にも予告できるようにしたい
	35	個人情報に十分注意している	4	1	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	1	4		地域交流の場を今後検討する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	3	0		マニュアル策定しているが、職員・保護者への周知をしていない。周知方法を検討し、周知を行なう。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	0		訓練を定期的に行なっている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	0	虐待防止委員会を設け、事業所内でも意識している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	3	0		該当児がいないが、必要に応じて検討が必要
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	4	0		該当児がいないが、必要に応じて検討が必要
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	0		